

夏の校外学習について

校長 相川 保 敏

長い夏休みが終わりました。学校では、久しぶりに友達や先生と顔を合わせた子どもたちの笑顔や笑い声が、あちらこちらではじけていました。今年の夏も東海地方では酷暑日となる日が何度かあり、連日のように熱中症アラートが発せられる厳しい夏休みとなりました。

本校では例年、夏休みの初めに校外学習を行っています。ここ10年間の行き先を調べると、下の表のようになります。自然体験や英語体験などを取り入れながら、仲間と生活を共にし、協働する力も育んでいます。子どもたちにとって、小学校生活の貴重な思い出の一つとなっています。

年度/学年	4年	5年	6年
平27	岐阜・郡上	三重・浜島	和歌山・東紀州
28	〃	〃	三重・南紀熊野
29	〃	兵庫・神戸	三重・青山高原
30	〃	〃	山梨・大泉高原
令1	〃	〃	〃
4	(牧歌の里)	滋賀・琵琶湖	〃
5	岐阜・郡上	〃	長野・諏訪湖
6	〃	〃	〃
7	〃	大阪・滋賀	〃
8	〃	兵庫・大阪・京都	〃

(令和2・3年度はコロナ禍で中止)

表からも分かるように、4年生は日帰りで実施した牧歌の里を除き、郡上での学習を続けています。本年度は7月21・22日に出かけました。今年も子どもたちは「おもてなし隊」となり、同行したネイティブ英語講師陣に着



付けを教えたり、郡上踊りや体験活動と一緒にしたりしました。英語で説明や案内をする中で、積極的にコミュニケーションを図ることが

できました。楽しい2日間となりましたが、日本最初の「酷暑日」を記録したのは7月21日で「郡上」でした。今後は、さらに暑さ対策を進めていく必要があります。

5年生は昨年度と同じ関西方面に出かけました。昨年度まで実施していた「自ら収穫した野菜を使ったバーベキュー」は猛



暑のため活動を取りやめました。代わりに、今年度は「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」や「ダイハツ工場」といった、社会科に関連する見学先を組み入れました。地震への備えは、過去・現在・未来を通して避けることのできない課題であり、防災教育は子どもたちにとって欠かせない学びです。過去の大地震から多くのことを感じ取ってくれたことと思います。また、トヨタ自動車の工場見学が難しくなった今、その代替として選定したダイハツ工場見学でしたが、実際に自分の目や耳で感じることで、日本の基幹産業の現状やこれからの姿についても考えるよい機会となりました。

6年生は、4年連続で長野・諏訪湖方面に出かけました。昨年度は諏訪湖畔でゴミ拾いを行い、プロジェクト学習につなげましたが、本年度は諏訪湖でカヤックに乗り、湖に流れ着くゴミの回収を行いました。初めは恐る恐るオールを漕いでいた子どもたちも、終わる頃には自由に方向を定め、ゴミの回収に努める姿が多く見られま



した。2日目には、4年目となるグループごとの農村体験を行いました。歓迎して下さる農家の方々のもとで、野菜や果物の収穫、収穫したものをを使った調理など、グループごとに異なる体験をさせていただきました。

校外学習はこれまで夏休みのスタートに行ってきたましたが、年々暑さが厳しくなり、活動や見学場所が制限されるようになってきました。今後は時期も含め、どのようなねらいで、どのような活動を行うのかを学校全体で検討し、子どもたちにとってより価値ある校外学習にしていきたいと考えています。